

緑友会報

緑友会報

第39号

発行日：2021(令和3)年6月1日

発行：大阪府立東住吉高等学校緑友会

発行人：坂田 繁数 12期生

題字：菅野 博行 15期生

主な内容

1・2- 校長アンケート

3- 共生推進教室スタート

3- ヒガスミニュース

4- 芸文卒業発表会

4- 現役の先生より

5- 卒業生便り

6- 職業人OBに聞く

7- 恩師から・話題の人

8- 特別会費・寄付

9- 住所不明者名簿

10- 進路状況

11- 決算書

12- 主な行事予定

この赤色は新卒業生 64 期生と新入生 67 期生の学年カラーに因んだものです。

コロナ禍に翻弄された 2020 年 激動の 1 年から得たもの

校長アンケートから

2020(令和2)年度をふりかえれば、徹頭徹尾新型コロナウイルス(COVID-19)の感染拡大にともなう対応に追われた1年となりました。東住吉高校においても様々な行事が影響を受け、変化を迫られた1年といえます。そんな1年を萩原 美由紀 校長にお伺いしました。

なお、取材は1月に、アンケート方式で行っています。

2020(令和2)年は新型コロナウイルス感染拡大を受け、3月2日からの休校の後、分散登校を予定して準備中の4月7日に緊急事態宣言発出を受けて一転、休校継続となり、新学期は氣勢をそがれた形となりました。

行事予定もなかなかたてられない状況の中、授業内容及び日数の確保や校内安全の確保など、職員の方々にかかる負担は大変だったと思います。

昨年の東住吉高校の状況についてお教えてください。

(萩原 美由紀校長=以下、校長) 令和2年度は、今まで経験したことのない臨時休業からのスタートとなり、生徒及び保護者の皆さまには、大変ご心配とご迷惑をおかけしました。

このような状況の中、6月から分散登校による授業が始まりましたが、授業日数の確保のため、体育祭の中止、土曜日授業の実施、夏休みの大幅短縮となり、生徒及び教職員には大変な負担をかけることとなりました。本校としては、11月の大学への推薦入試の開始までに、例年と同じ学習内容を終

えることを決定し、生徒の学力保障に努めてまいりました。

また、オンライン授業についても整備し、科目によっては、オンラインによる課題配信及び課題提出を行っております。

幸いなことに、多くの生徒たちは、家庭のご協力のもと、自学自習の習慣を身に付け、例年を上回る模擬試験の成績を残し、今年から導入された共通テストにおいても、本校平均点は、大半の科目で全国平均点を上回るという結果を出してくれました。

昨年度は、共生推進教室が開始されたり、大学入学共通テスト開始元年の年であったり、何かと変革の年であったかと思いますが、高校の取り組みについてお教えてください。

(校長) 令和2年度から共生推進教室が設置され、共生生徒は、授業の半分程度の時間を40人の教室で共に学び、週に6時間は、個別の生徒の状況を踏まえて、抽出により少人数授業を行っています。

また、自立活動では、なにわ高等支援学校における職業実習や校内での実習に加えて、学校説明会では、生徒によるプレゼンテーションや案内を実施することができました。

共通テストの導入に当たっては、平成29年度にご寄贈いただいた電子黒板を活用しながら、授業に加えて、講習や補講、生徒によるプレゼンテーション活動を充実してまいりました。また、導入3年目となるGTEC(英語4技能測定テスト)の中では、全生徒が、タブレットに向かって英語でやり取りする活動を行っています。

私自身がその様子を見学しながら非常に驚いたのは、生徒たちが、タブレットに向かって臆することなく、堂々と英語でやり取りをしている場面です。教員が想像する以上に生徒たちは、ICT機器を自在に活用し、英語で話す時代がやって

